2023/2/5　　「 ステキな味 」　　ルカ 14:34-35

福寿草が咲いて、厳しい寒さの中にも、春の訪れを感じさせます。教会にとっては、創立記念月間、先達に思いを馳せ、新たな思いを持って歩みたいと思います。

２つの塩のイメージ

今朝の聖書に出てくる「塩」には、身近な存在であるからこその、特別なイメージがあります。それは、良い意味も、悪い意味も持っているという特徴です。悪いイメージは、作物が育たない土地を「塩地」、「塩の海」を「死海」、誘惑に負けたロトの妻がなった「塩の柱」などです。命を吸い取り、萎えさせるほどの力の象徴です。

しかし同じ塩は、良い意味でもたとえに使われます。コロサイ４章には「塩で味付けされた快い言葉を使いなさい」と記されています。塩が身体に良いことは現代でもよく知られていますし、日本の文化でも腐敗を防ぐ象徴として、塩は清いものです。

イエス様は、「ステキな味わいのある人になりなさい」と言われました。バランスのとれた、洗練された人格をみがく、イエス様の特別レッスンへの招待です。

自分の持ち味を生かせ

塩について思い巡らすとき、やはり大切なのは「塩の量」です。料理で「塩加減」ほど難しいことはありません。足りなければ物足りないし、かたまりが入っていれば食べられなくなります。好みもそれぞれですし、自分でもこれで良いのか分からなくなることすらあります。経験と知識、また繊細な感覚が必要です。

人間の身体の 0.数%はミネラルです。でもこの塩分がないと生きていけません。自分という存在も「絶妙な塩加減」のバランスをとって生きているのです。同じように、自分の持ち味、賜物を生かしてこそ、毎日が生き生きと、良い循環で巡っていくのではないでしょうか。人生を彩るのは、この自分の塩味を引き出しているかです。でも、自分のバランス、周りの人にも喜ばれる存在になっているのか、自分自身ではよくわかりません。だから、みんな深く考えることをやめ、投げやりになって自分自身の価値を下げてしまうのです。しかし、これは御心ではないのです。

イエス様は、あなたの持っている特別な味わいを、もっと引き出す味つけを期待しておられます。これは 33 節までの「全力で命を燃やすことは幸いなのだ」というメッセージの締めくくりです。役に立つ存在として、一人一人が召されています。

もちろん、人間には良いところも、悪いところもあります。けれど、それはその人の味わいであり、表裏一体だと言うこともできるでしょう。イエス様は、それを「良い」と言ってくださるお方です。その味がなければ、あなたではない、と言ってくださるのです。ただ、そのままではバランスがとれません。洗練された素敵な味となるためには、人生まるごとを消費する、その意気込みがやはり必要なのです。